

学会彙報

○昭和六十三年大塚漢文学会大会

六月二十五日(土)

東京都教職員互助組合教育会館

〔研究発表〕

- 一、『韓非子』諭老篇について 筑波大学大学院 菅本 大二
- 一、『墨子』尚賢篇の成立について 筑波大学大学院 小野塚相三
- 一、李商隱の祭文について 筑波大学大学院 加固理一郎
- 一、烟花三月下揚州について 小山工業高等専門学校 中田 伸一
- 一、詩經における鳥について — 「鳥が木にとまる」の表現を巡って — 筑波大学大学院 増野 弘幸

一、鍾会をめぐる一試論 青山学院大学 大上 正美

一、『論語義疏』における邢昺疏輸入について 東京外国語大学 高橋 均

一、王陽明と九華山行 国士館大学 志賀 一朗

〔漢文教育シンポジウム〕

「大学における漢文教育の現状と問題点」

司会

北海道教育大学

高木 重俊

中国文学科における漢文教育 筑波大学 内山 知也

日本文学科における漢文教育 京都教育大学 青木 五郎

教職課程(国語科免許)と漢文教育 千葉大学 田部井文雄

〔総会〕

一、開会の辞

二、議長選出 菅野礼行氏を選出

三、委員長挨拶

四、諸報告

(1) 庶務

(2) 企画

(3) 会報編集

五、議事

(1) 昭和六十二年度決算

(2) 昭和六十三年度予算

(3) その他

六、閉会の辞

○月例会 昭和六十三年十二月三日(土) 筑波大学学校教育部

現代中国語における存在表現について

— BE-language VS. HAVE-language —

李沢厚の孔子評価について 群馬工業高等専門学校 阿部 博幸

○月例会 平成元年三月十一日(土) 筑波大学学校教育部 阿川 修三

近代思想史の枠組の再検討 武威高非常勤講師 佐藤 一樹

「礼」經典の定立をめぐる

北海道教育大学名誉教授

加賀 栄治

住所、勤務先に変更のあった方は、事務局(千三〇五 茨城県つくば市天王台一——) 筑波大学文芸・言語学系内大塚漢文学会)

宛に御一報下さい。

内山 委員

水沢委員長

松本 委員

向嶋 委員

大上 委員

堀池 委員

堀池 委員

堀池 委員

堀池 委員

堀池 委員

堀池 委員

内山 委員

大塚漢文学会々則

- 一、本会は大塚漢文学会と称する。
- 二、本会は漢文学及び漢文教育の研究と普及とを図ることを目的とする。
- 三、本会の会員は左の通りである。
 - 1、旧東京教育大学漢文学会々員であつて参加を希望する者
 - 2、その他入会を希望する者
- 四、本会の主な事業は左の通りである。
 - 1、総会 年一回
 - 2、例会 年約三回
 - 3、学会誌及び会員名簿の発行
 - 4、その他必要な事項
- 五、本会の役員は左の通りである。
 - 1、委員長 一名
 - 2、委員 若干名
 - 3、編集委員 若干名
- 六、役員の仕事
 - 1、委員長は本会を代表し委員とともに運営にあたる。
 - 2、委員は本会の庶務・会計・企画を分担する。
 - 3、編集委員は学会誌の発行にあたる。
- 七、役員の選出及び任期
 - 1、委員長は委員の互選による。
 - 2、委員は会員の互選による。
- 3 委員会が必要に応じて委員を委嘱することができる。
編集委員は委員会が委嘱する。

4 任期は二年とする。ただし重任は差し支えない。

八、会員は会費年額四千円を納める。

九、本会々則の変更は委員会の審議を経て総会出席者の過半数の承認を得なければならぬ。

附則1、本会は昭和五十四年六月二十三日より東京教育大学漢文学会々則に代つて発効する。

2、本会の事務所を当分の間筑波大学文芸言語学系中国文学研究室に置く。以上

編集委員(委嘱)

(哲学・思想) 小林 信明・加賀 栄治・水沢 利忠
(文学・語学) 鈴木 修次・内山 知也・伊藤 虎丸
(漢文教育) 鎌田 正・金子 泰三・田部井文雄

漢文学会会報第四七号

平成元年六月二〇日印刷
平成元年六月二五日発行

編輯者

伊藤 虎丸・高橋 均・謡口 明
大上 正美・佐治 俊彦・安藤 信広

印刷所

東京都千代田区神田神保町三ノ一〇
株式会社 共立社印刷所
電 (261) 二〇〇二八

発行所

茨城県つくば市天王台一―一―
筑波大学文芸言語学系内(千三〇五)
大塚漢文学会